## 神野御茶屋

紫川庸

殿様の別邸 KONO Villa since 1846



## ごあいさつ

神野御茶屋は、藩主の心をしばし解き放つ特別な空間でした。 中野御茶屋です。のちに自ら後悔したと言われるほど、その造作は壮麗で、御茶屋のうち、弘化三年(一八四六)に造営された最も宏壮な御茶屋が、神野御茶屋です。のちに自ら後悔したと言われるほど、その造作は壮麗で、神野御茶屋です。のちに自ら後悔したと言われるほど、その造作は壮麗で、神野御茶屋は、藩主の山をしばし解き放つ特別な空間でした。 中野御茶屋は、 
一次のは、 
中のののののでは、 
中ののののののでは、 
中のののののののののののでは、 
中のののののののののののでは、 
中野御茶屋は、 
中ののののののののでは、 
中ののののののののののののでは、 
中ののののののののののでは、 
中ののののののののののののでは、 
中のののののののののでは、 
中ののののののののののでは、 
中のののでは、 
中ののののののでは、 
中ののののののでは、 
中のののでは、 
中ののののでは、 
中のののでは、 
中ののののののでは、 
中のののでは、 
中ののののののでは、 
中のののでは、 
中のののでは、 
中ののでは、 
中ののでは、 
中ののでは、 
中ののでは、 
中ののでは、 
中ののでは、 
中のののでは、 
中ののでは、 
中ののでは、 
中のののでは、 
中ののでは、 
中ののでは、 
中ののでは、 
中のののでは、 
中ののでは、 
中のでは、 
中ののでは、 
中のでは、 
中ののでは、 
中のでは、 
中のでは、 
中のでは、 
中のでは、 
中のでは、 
中のでは、 
中のは、 
中のでは、 
中のでは、 
中のは、 
中のでは、 
中のでは、 
中のでは、 
中のでは、 
中の

飾った御道具の数々によって往時の御茶屋の趣きを偲ぶ展覧会です。れている神野御茶屋の歴史を文書や古地図、古写真からたどり、室内を公園と名を改めて来年で九十年。今なお市民の憩いの場として親しままた明治時代以降も、御下県の際には侯爵鍋島家による園遊会が催さまた明治時代以降も、御下県の際には侯爵鍋島家による園遊会が催さ

平成二十四年九月二十四日



#### 目次

 出品リスト
 一

 おいさつ
 二

 は品リスト
 1

 47
 44

 42
 3

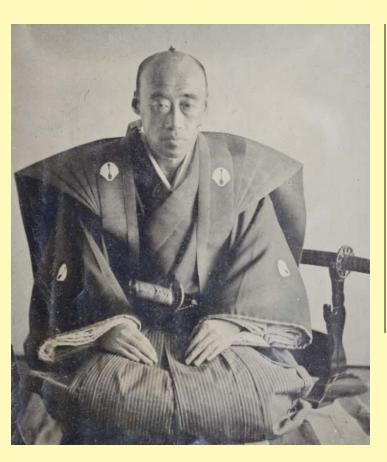
 2
 1

#### 凡例

- い。 、資料の順序は各テーマに従って配列し、陳列の順序とは必ずしも一致しな
- の文書資料等は、名称欄に記事内容等を記載した。ンチメートル)、品質・形状、所用者、所蔵者、解説の順に記した。但し、一部、資料解説の表記は、出品番号、名称、員数、時代・年代、作者、法量(単位はセ
- を付した。 立図書館に寄託されている鍋島家文庫資料については、その旨と請求番号、所蔵者表記のないものは、いずれも財団法人鍋島報效会所蔵。但し、佐賀県
- め、読み下し文にして送り仮名を補ったところがある。一、解説文中の史料引用は、カタカナや漢字を平仮名にするなど適宜表記を改
- 子、学芸員 富田紘次)が行った。 一、編集・執筆は財団法人鍋島報效会(主任学芸員 藤口悦子、学芸員 野口朋
- 人鍋島報效会 資料調査員)が行った。 、図版の写真撮影は、久我秀樹(久我写真事務所)、富田紘次、伊藤 優(財団法

# 1 鍋島直正公肖像写真(パネル展示) 一枚

直正公の四つの御茶屋殿様の別邸



本展で紹介する神野御茶屋は、一八四六)に造営した御茶屋(別邸)である。直正公の時代には、佐賀城下である。直正公の時代には、佐賀城下の内外に複数の御茶屋が存在していた。ここでは神野御茶屋を中心に、たっここでは神野御茶屋をとりあげ、その成立や使用方法などの特徴について紹介する。



十可亭 直正公は川上(現・佐賀市大和町)の十可亭(御腰掛)へもしばしば出かけた。建屋は30~40坪ほどというが、川上の景勝が一望できた。特に8月には鮎築の記事が年譜に散見され、昼は鮎築、夜は川上川に鵜舟を浮かべて遊んだという(『公傳』第五篇)。

## 十五御茶屋 (弘化三年解体)

茶屋(現・佐賀市鬼丸町)には、天保元ながら続いた伝統の地に建つ十五御ながら続いた伝統の地に建つ十五御ながら続いた伝統の地に建っ十五御ながら続いた伝統の地に建って形を変え家や藩主家の御茶屋として形を変え

年(一八三〇)、直正公が藩主に就任した当初は「大御伯母右年(一八三〇)、直正公が藩主に就任した当初は「大御伯母右に、八三〇)、直正公が藩主にはしば足を運んでいた。しかし天直正公はその頃からしばしば足を運んでいた。しかし天は、年、「十五と中折とに御茶屋あるのみ。されど孰れも亦保、年、「十五と中折とに御茶屋あるのみ。されど孰れも亦保、年、「十五と中折とに御茶屋あるのみ。されど孰れも亦保、年、「十五御茶屋周辺の武家屋敷が藩により買収された。これに伴い、天保八年からは武芸調練のための御用地として十五御茶屋周辺の武家屋敷が藩により買収された。これに伴い、天保八年からは武芸調練のための御用地として十五御茶屋の頃からしばしば足を運んでいた。しかし天で、弘化三年(一八四六)の神野御茶屋造営に伴い最終的にで、弘化三年(一八四六)の神野御茶屋造営に伴い最終的にで、弘化三年(一八四六)の神野御茶屋造営に伴い最終的にずるなど藩主別邸としての機能はますます薄らいだようで、弘化三年(一八四六)の神野御茶屋造営に伴い最終的にず、弘化三年(一八四六)の神野御茶屋造営に伴い最終的にず、弘化三年(一八四六)の神野御茶屋造営に伴い最終的に、山口の大の神野御茶屋が、北京の神野御茶屋が、北京では、1000年で、弘代では、1000年で、弘代では、1000年で、弘代では、1000年で、弘代では、1000年で、弘代では、1000年で、弘代では、1000年で、弘代では、1000年で、弘代では、1000年で、弘代では、1000年で、弘代では、1000年で、弘代では、1000年で、弘代では、1000年で、弘代では、1000年で、弘代では、1000年で、1000

### 『公傳』第二篇によ。 佐賀城と御茶屋

『公傳』第二篇によれば、天保六年、痢病にかかった直正公『次傳』第二篇によれば、天保六年、痢病にかかった」という次第である。

城二の丸御殿が焼失した。直正公は天保九年以降は再建さたまたまだが、水ヶ江御茶屋造営中の五月十一日に佐賀

3



がつき、東側には花頭窓がつく。

東西に並ぶ二間と池に張り出した「拭板」と縁側

れている。一方、中島に建つ中島釣殿(茶雨庵)は と、南西部の泉水に面する別棟部分とで構成さ

からなり、池泉に張り出した部分には「御手スリ」

#### 6 神野御茶屋図

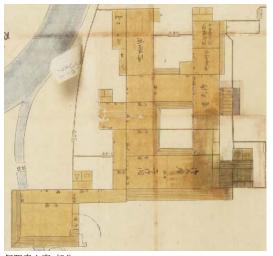
紙本淡彩墨書 区一三七·五㎝ 横一三〇·三㎝ 江戸時代末期(一九世紀) 付近に付箋が貼られている。また変更後の本図の 右の計画図の平面間取りと比べると、無限青山亭 の御式台まわりに変更が見られ、御式台や御入座

棟造・茅葺・入側庇桟瓦葺の建物で、間取図によ

泉水の北東に位置する無限青山亭は平屋建・寄

を示した絵図と思われる。

びの部屋が中庭を囲んで回型四方をなす部分 ると南側の「御入座・二ノ御間」を中心に一列並 間取りが現状に通ずることから、のちの改築事情



無限青山亭 部分

舗

## 37 唐松布袋唐子堆朱香盆

枚

高さ二・一㎝ 竪一九・二㎝中国・明時代(一六世紀) 堆朱 横一九・一

菱響の地文に雲鶴を交互に配し、というの間には花かけた布袋に戯れる六人の唐子をあらわす。四周には花が には卍繋の地文に唐松と岩、頭陀袋を結わえた杖を肩に 本作は香炉などをのせるための盆で、見込に枠を設け、内

あらわす。底面は黒漆塗とする。 外側には同地文に四種の花卉文を





## 38

木製 漆塗 螺鈿木製 漆塗 螺鈿 横六·七㎝

屋が落成した際に、床飾りとして用いるために御道具方より 半裁の輪違い風連続文をほどこす。弘化三年八月、神野御茶 文のなかに網代を貼付する。入隅部は二列の連珠文、脚部は 顔や衣には毛彫りを施す。各段の側面には周囲の七宝花菱繋 る。総体黒漆塗、蓋裏・見込は朱漆塗で、合口部は錫製とする。 借用した御道具のうちの一つ。 蓋表には薄貝螺鈿と金切金で布袋と六人の唐子をあらわし、 方形入角、印籠蓋造、台付の三重香合で、台には刳形をつけ

る。



#### 39 銀夕顔形水注

高さ一〇・〇 cm

合

の葉を、胴全体はどっしりとした夕顔の実を象ってい れる。把手は籐巻とし、注口は細く湾曲する。蓋は夕顔 の。銀製の水注で、箱書と御道具帳には「水入」と記さ 水注は文房具の一種で、硯に注ぐ水を入れておくも

のあり方に則ったものであろう。 であるが、文机に置き、あるいは書院飾りとする唐物 日本では器に二つの水穴を設けた水滴を筆や硯と共 に硯箱に収めて用いるのが主流であり、本作は日本製



合

30





大正9年11月 梨本宮守正王・伊都子妃殿下(11代直大公 二女)の御来園



大正6年5月3日 直茂公三百年祭帰県時の園遊会

						i	i	i	i	i	i	i	i	:	公	i	正		直	i	i	i	i			i	i	当
	明治十七年		明治十四年	明治八年	明治初期	明治四年			明治二年			明治元年	慶応四年		元治元年	文久二年							弘化三年	弘化二年	天保十三年	天保六年	天保元年	当主和暦
	一八八四		一八八一	一八七五		一八七一			一八六九			一八六八	一八六八		一八六四	一八六二							一八四六	一八四五	八四二	一八三五	一八三〇	西曆
九月十七日	三月十八日	十月十四日	九月二十六日	九月		一月十九日	三月二十二日	三月二十一日	三月十一日	十一月二十日	十月二十四日	十月二十一日	八月晦日	十月二十三日	三月	十月十一日	八~九月頃	八月一日	六月十七日	五月二十七日	四月十五日	三月十八日	二月二十日	九月二十四日	八月二十九日	二月朔日	二月七日	月日
神野	神野	神野		神野	神野		水ケ江	神野	神野	神野	神野	神野	神野	神野	神野	十可亭	神野	神野	神野	十五	神野	神野	神野	欄干	欄干	水ケ江		御茶屋
宅・今宿御仕法方その他、損害を被る暴風雨により松原社御境内の石玉垣などが倒れ、神野御別荘・高伝寺・諸番御仕法方・春日山御祠堂ならびに番	文部少輔九鬼隆一其外来佐賀、神野御別荘へ御招請	長崎県令内海忠勝出佐賀、神野御別荘にて酒食差出す。田中清輔・佐賀郡長その他が相伴	大風雨にて御館をはじめ、神野御別荘その他、所々大破	溝村両村に掛かる)	神野御茶屋のうち、茶雨庵を筆頭家老であった中野数馬へ下賜し、城内の中野家へ移築	直正公、逝去	直正公、散歩の後、水ヶ江御茶屋に立ち寄る(同御茶屋入りの年譜最終記事)	直正公、馬車にて神野御茶屋に入る(同御茶屋入りの年譜最終記事)	直正公・直大公、御乗廻にて神野御茶屋に出る	直正公、米国人フルベッキらを神野御茶屋に招く	直正公、神野御茶屋に熊本藩の家老・溝口孤雲を召し、娘の宏姫と熊本藩主・細川護久の縁談について内密に相談	直正公、神野御茶屋で岩倉侍従(岩倉具視の息子)と初めて面談	直正公、神野御茶屋に唐津藩の使者・大八木衛守を召す	直正公、神野御茶屋にて熊本藩の使者・片山多門を召す	この年、神野御茶屋を一般開放する	都渡城宿御狩方役宅へ「御入座」を建てるよう仰せだす	このころ神野御茶屋竣工	直正公、神野御茶屋に入る(年譜初出記事)	神野御茶屋御家作につき、平吉郷村々より労働奉仕の申し出があり裁許となる	十五御茶屋を解体し、同所へ石火矢方役所を引き直すよう仰せ出す	松原神社社人の早田佐渡守らにより、神野御茶屋地鎮祭挙行	この日より、神野御茶屋の掘方普請に取りかかる	神野村・八戸溝村境の場所へ御茶屋を建てるよう仰せ出し	直正公、欄干御茶屋で福岡藩主・黒田長溥と会談	欄干御茶屋を造営	水ケ江御茶屋を造営	直正公、佐賀藩十代藩主となる	事項
早引諸集一号	早引諸集一号	早引諸集一号	早引諸集一号	早引諸集一号	隔林亭文書		直正公御年譜地取	直正公御年譜地取	直正公御年譜地取	直正公譜、直正公御年譜地取	直正公譜、直正公御年譜地取	直正公譜、直正公御年譜地取	直正公御年譜地取	直正公御年譜地取	直正公譜、鍋島直正公傳	直正公譜	神野御茶屋棟札、年譜、鍋島直正公傳	直正公御年譜地取	直正公御年譜地取	直正公譜、直正公御年譜地取	神野御茶屋御家作一件扣	神野御茶屋御家作一件扣	直正公譜、直正公御年譜地取	鍋島直正公傳直正公讚年譜地取	鍋島直正公傳直正公翻年譜地取	直正公譜、鍋島直正公傳		出典

鍋島直正公肖像写真 直正公御年譜地取 巻五	1枚	安政6年(1859)	竪 10.7 横 8.1	川﨑 道民 撮影
直正公御年譜地取 巻五		X4X 0 1 (1000)	立 10.7 换 0.1	川岬坦氏城郊
	1 ∰	明治時代(19世紀)	竪 25.5 横 18.2	鍋 113-24
直正公御年譜地取 巻五	1 ∰	明治時代(19世紀)	竪 26.4 横 18.4	鍋 113-23
神野御茶屋御家作一件扣	1 ∰	弘化3年(1846)	竪 18.8 横 13.4	鍋 673-2
神野御茶屋図 *		江戸時代末期(19世紀)		鍋島文庫資料・郷 182
				鍋 113-24
			" "	
				佐賀県立図書館所蔵(郷 113)
古写真 無限青山亭藤花 *		明治時代初期(19世紀)		鍋 9-155-1
古写真 中島釣殿 *	1枚	明治時代初期(19世紀)	(本紙) 竪 15.0 横 19.7	鍋 9-155-1
直正公御年譜地取 巻八	1 ∰	明治時代(19世紀)	竪 25.5 横 18.2	
淡話筆記	1 ∰	明治 27 年(1894)	竪 25.7 横 18.4	鍋 988.9-4
古川松根筆記	1 ∰	明治時代(19世紀)		鍋 109-7
				鍋 113-40
				直正漢詩集
				10 代鍋島直正長女・貢姫宛
渦島直正書簡			竪 17.2 横 95.4	10 代鍋島直正長女·貢姫宛
神野御茶屋御置付御道具帳	1 ∰	弘化3年(1846)7月	竪 29.8 横 20.6	鍋 092-2
卸道具方御品控帳	1 ∰	弘化3年(1846)	竪 27.1 横 18.8	鍋 074-2
			竪 27.0 横 19.0	鍋 090-7
				洪浩然筆
				呂紀筆
				山心半
		1 1 1 1 1		
宗偏好 四方釜風炉 五徳添	1 具	享和3年(1803)	高さ 13.7 胴径 35.2	松木宗四郎作
<b>克締糸目結形水指</b>	1 🏻	江戸時代(18~19世紀)	高さ 18.1 口径 13.2 高台径 11.2	備前焼
染付楼閣山水文中水指	1 合	江戸時代後期(19世紀)	高さ 18.5 口径 7.2 胴径 11.4	大川内焼
				8代藩主•鍋島治茂 伝来
			1 1 1 1 1 1	名越弥五郎作
				J-Lessylvitial)   F
				L / Salam P
				水谷義閑作
黒漆塗尻張棗	1合	江戸時代	高さ 6.2 最大径 6.0	
黒漆塗丸小板	1枚	江戸時代	高さ 2.0 口径 30.9	
批杷色唐銅尻張形水次	1合	文化7年(1810)	高さ 23.7 口径 11 胴径 18.8	名越弥五郎作
				大川内焼
				. T.II 4// E
				山田,始白空
				中国•龍泉窯
黒漆塗布袋唐子螺鈿網代香合	1合	中国•清時代(18世紀)	高さ7.8 竪 6.7 横 6.7	
<b></b>	1合	江戸時代	高さ 10	
梨子地秋野蒔絵硯箱	1合	江戸時代(18世紀)	高さ4 竪25 横14.5	古満安明作
			1 1	
			` '	
		1 1 1 1 1		
<b></b>	1点	朝鮮•李朝時代		
<b>梨子地鳳凰雲鶴蒔絵中央卓</b>	1基	江戸時代後期(18世紀後半)	高 52.3 竪 35.5 横 37.0	古満巨柳 作
跌刀木茶棚	1基	江戸時代	高さ35.9 竪27.4 横34.3	
			1 1	
				纽 000 3 1
				鍋 988.3-1
				鍋 988.2-5
1 1 1 1 1	1 冊	明治20年(1887)2月		鍋 988.2-4
過島侯御来栄之概況	1 ∰	明治 20 年(1887) 2月	竪 23.1 横 17.5	鍋 988-6
<b>過島侯御入栄概況餘聞</b>	1 ∰	明治20年(1887)2月	竪 24.9 横 17.7	鍋 988-7
卸来佐日記	1 ∰	明治 34 年(1901)	竪 27.1 横 18.6	鍋 988.1-4
				鍋 988.2-23
				鍋 988.2-25
侯爵様•奥方様•直泰様 御下縣略記				鍋 988.2-39 鍋 988.2-48
	1 舗	大正時代(20世紀)カ	竪 79.7 横 54.5	ज्ञाम्। <i>उ</i> पप्र.८ <sup></sup> ±0
侯爵様・奥方様・直泰様 御下縣中の新	1 ##	大正 12 年(1923) 3月	竪 27.0 横 38.6	
聞切抜				North Halland Harr
色絵杏葉紋付兎花唐草文喫茶具	1 揃	大正 12 年(1923)	(皿) 口径 18.2 底径 11.4 高さ1.7	深川製磁製
正 —— 正是一正里鱼鱼才不才养人鱼人多世多一人人一人一人一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个	神野御茶屋図 中佐嘉縣神野村 * 古古写正新聞中大宗 華 一 古古古古正 一 章 一 章 一 章 一 章 一 章 一 章 章 一 章 一 章 一 章	中佐嘉紹神野村 * 1 舗 古写真 無限青山亭藤花 * 1 枚 古写真 無限青山亭藤花 * 1 枚 直正公御年譜地取 巻八 1 冊 該話出 1 冊 古写真 中島釣殿 * 1 冊	中佐嘉潔神野村 * 1	# 1

<sup>※</sup> 所蔵先を表示していないものは、いずれも財団法人鍋島報效会所蔵 ※ 鍋島家文庫資料(財団法人鍋島報效会所蔵 / 佐賀県立図書館寄託)は、備考欄に「鍋 673-2」のように請求番号を示した ※ \*印は写真パネル展示

#### 謝辞

様に厚く御礼申し上げます。 またご協力・ご助言頂きました左記の皆 は貴重なご所蔵品をご出品頂きました。 本展の開催にあたり、佐賀県立図書館に

(敬称略・50音順)

石橋

道秀

大園隆二郎

康二

富雄

力

## 神野御茶屋 ―殿様の別邸

藤原 永松 中野 中野 小池 川上 大橋

友子

正裕 和彦

亨

編集·発行 佐賀市松原二丁目五-二二 〒八四〇-〇八三一 公益財団法人鍋島報效会

URL http://www.nabeshima.or.jp TEL 〇九五二-二三-四二〇〇

発行年月日 (㈱佐賀印刷社) 平成二十四年九月二十四日(第二刷) 平成二十四年九月二十四日(第一刷)

刷

印

とを禁じます。 本書の全部または一部を無断にて転載・複製するこ © 二〇一五 公益財団法人鍋島報效会

鍋島報效会は、本展開催時は財団法人でしたが、平成 二十五年四月一日に公益財団法人へ移行しました。

K O N O V i l l a s i n c e 1 8 4 6





NABESHIMA